

あつという間の6年間

今から6年前、妊娠35週目の夜に急な腹痛に襲われ病院に行く、『常位胎盤早期剥離』と診断され、真夜中に緊急帝王切開で出産しました。体重は2050g。小さいだけでとても元気な男の子で、2週間の入院で家に帰ることができ、それから順調に体重も増えすくすくと成長。でも一歳半を過ぎても発語がなく目も合にくい、棒など細長いものが好きでおもちゃに興味がないなど心配はありましたが、こども園に入園し他の子から刺激を受けてきつと成長するだろうと思いい、そこまで発達の遅れについて気にすることはありませんでした。しかし、周りのお友達はできることが増えていくのにMはできないことばかり・・・集団活動に参加できず毎日泣いていたM。私が仕事を理由にちゃんと向き合っていないことから「障害」があるなんて考えてもいませんでした。

ちょうど二歳になったころ、たまたまこども園を巡回していた発達に詳しい大学の先生に相談することができ、「知的障害を伴う自閉スペクトラム症の可能性が高い」と言われ、その時は受け止めることができず、涙が溢れ自分を責めました。それでもなんとかしなきゃいけない、早く病院に受診しなければと思いい、運が良くすぐに予約が取れて受診することができました。月に一度の診察がはじまり、自閉症についての知識がほとんどない私でしたが、少しずつ特性について理解できるようになってきました。そして年少になる前に、進路についてとても悩みましたが、いこいの家にお世話になることに決めました。

いこいの家に入園しすぐに、コロナウイルス感染防止のため緊急事態

宣言が発令され、いこいの家に慣れないまま自宅待機になり、いつ通園できるようになるかわからない、生活のリズムも崩れとても不安でした。でも通園できるようになったら、私が思っていたよりも元気に楽しそうに通う姿がみれて安心しました。暑いのも歩くのも苦手なMが、はじめての親子遠足で城北公園まで往復歩くことができ、運動会、クリスマス会の行事でも笑顔で参加できました。毎日泣いていたMが・・・それは先生方が優しく、どんな小さな事でもできたことをとても喜んでほめてくれる、Mのペースに合わせて寄り添ってくれたおかげです。まだ話すことはできませんが、意思表示が少しずつ上手になり、それはMにとって大きな一歩です。親友と言ってくれるお友達もでき、いこいの家での生活はとても充実した日々だと思います。

今のMがあるのは、いこいの家の先生方をはじめ、今までに出会った沢山の人のたちのおかげです。

卒園まであと半年、Mが笑顔で楽しく毎日を過ごしてくれたらいいです。

これからもよろしく願います！

Mくん（五歳）のお母さん